都道府県名	奈　良　県

Ⅰ　学校の概要（平成15年４月現在）

学校名	桜井市立纒向小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	障害児学級	計	教員数
学級数	１	１	１	２	１	２	２	１０	１７
児童数	３５	３９	３６	５５	３９	４３	５	２５２	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自分の思いや願いを伝え合うための表現力を養い、自ら学び、考え、行動できる子を育てる。
――― 子ども同士が協働しながら追求する姿を求めて ―――

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

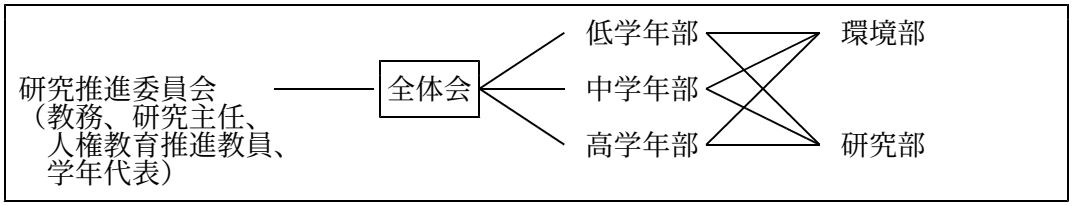
全学年・国語
本校では従来から、国語科・総合的な学習の時間を中心に、自ら課題を見付け、表現する力をのばす指導を進めてきたが、さらに、国語科に焦点を絞って、伝え合う力を身に付けさせることとした。また、学力の基礎となる部分に着目し、自尊感情を高めながら学習意欲を高めることをねらいとした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 自分の思いや願いを伝え合うためのコミュニケーション能力（音声表現力）を養い、自ら学び、考え、行動できる子を育てる。 ― 子ども同士が本音でつながりあえる話合いができる姿を育てよう　― ○　研究の見通し 子どもが自ら課題をもち、追求することで、主体的な学習が成立し、生きる力としての基礎学力が向上する。 ○　研究の内容・方法 ①児童の生活実態調査 ②学習教材の開発 ③校内授業研究会 ④部会別研修会（環境部・研究部） ⑤低・中・高学年部会 ⑥校内研修会・先進校研修

平成16年度	○　テーマ 自分の思いや願いを伝え合うための表現力を養い、自ら学び、考え、行動できる子を育てる。 ―― 子ども同士が協働しながら追求する姿を求めて ―― ○　研究の見通し 子ども自らが課題をもち、意見を伝え合い課題を追求することで、主体的な学習が成立し、生きる力としての基礎学力が向上する。 ○　研究の内容・方法 ①児童の生活実態調査 ②学習教材の開発 ③校内授業研究会 ④部会別研修会（研究部・環境部） ⑤低・中・高学年部会 ⑥児童の学力診断と結果の分析 ⑦保護者への啓発と子育て支援

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成15年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○話合いを中心にすえた授業で、子どもたちに意見を出し合う楽しさ、聞き合うおもしろさを味わわせることから始めた。そのための手順として、意見交流の前には必ず書き（一人学習）、意見交流（協働学習）をする。新しい課題見つけを経て、また書く・交流するをくり返し、ていねいに取り組むようにした。
○学級や学年の児童の実態に応じて重点教材を選び、Ｔ・Ｔによる授業で児童のつまずきを見付け個々に対応した。発言の前に書くという作業を入れることで、以前に比べ、自分の意見や考えを発表する児童が増えた。自分の意見をもつと、『みんなはどんな意見をもっているのかな』という気持ちが芽生えてきた。また、授業で自分の意見が言えたりみんなに聞いてもらえたりする経験を積むと、自尊感情が高まり、それまで学習に意欲的に取り組めなかった児童の授業中の態度に変化がみられた。
○本校が目指す「学力」について研修をし、何が大事か、何を大事にすべきかを確認した。
・子どもが気付いた問題や、自分で選択することを大事にする。
・疑問や課題を解決するために、一人学習・協働学習をした上で、できるようになるまでくり返し練習させる。
・学力を獲得して、人を大事にするために使うということを、自分の生き方とつなげてとらえさせる必要がある。
・話し手・聞き手の両方を育てるためには、受け・答えの方法を教えなければ議論は続かないが、子どもにコミュニケーション・センス（感性）を育てることをしないでスキルだけを身に付けさせると、授業ではできても日常生活で生かされない。
・仲間づくりを進めることで、安心して表現できる場を意図的に作ることを大事にする。
○朝の全校一斉「読書タイム」や、「すくすくタイム」（基礎学力充実の時間）を継続することにより、読書の習慣や自主的学習態度が身に付きつつある。
○個人ノートを大切にし、個別に赤ペンを入れることで、一人一人の思考がよく分かり、その変容や発達を把握することができるようになってきた。

２．今後の課題

○話合いの進行や板書のしかた、Ｔ・Ｔの役割について共通理解を図る。
○自分で自分をふりかえる自己評価を工夫する。
○評価規準の到達度に照らした一人一人の学力を見きわめる。
○国語科以外の授業の組織化、また全領域を通して表現力の育成を図る。
○家庭学習を定着させるための保護者への啓発をする。

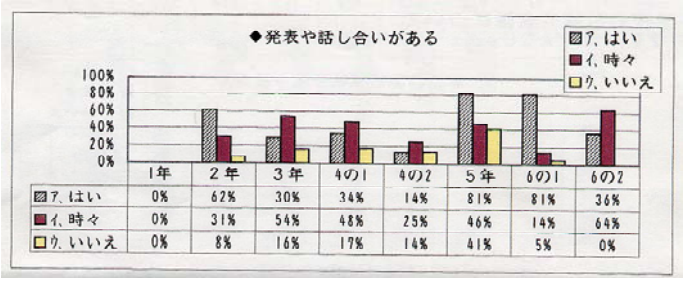
Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○生活、学習（学校・家庭）についての児童実態調査・・・（年１回）
○県学力診断テスト（国語・算数）・・・（年１回）
○児童実態交流会・・・（年３回）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・多様な機会をとらえて学校を開放し、保護者に参観の機会を設ける。（参観週間や集会の公開等）
・家庭学習で大事にしてほしいことを伝え、保護者の協力を求める。（学校だよりでの啓発）
・平成15年度、中学校区別研修会で授業公開・研究協議会を開催した。
・平成16年秋に、研究発表会の開催を予定している。

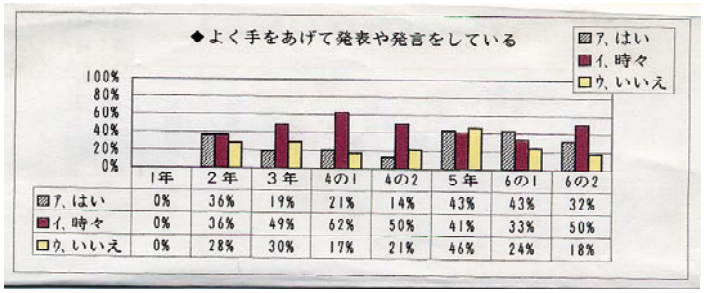
《１学期のアンケート結果より》



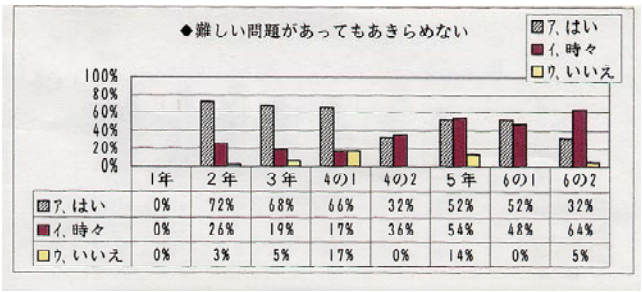
	1年	2年	3年	4の1	4の2	5年	6の1	6の2
ア、はい	0%	62%	30%	34%	14%	81%	81%	36%
イ、時々	0%	31%	54%	48%	25%	46%	14%	64%
ウ、いいえ	0%	8%	16%	17%	14%	41%	5%	0%

授業の中で話し合いをする場がよくあると子どもたちは感じている。特に高学年。

しかし自分から発言したり発表したりする子は少ない。



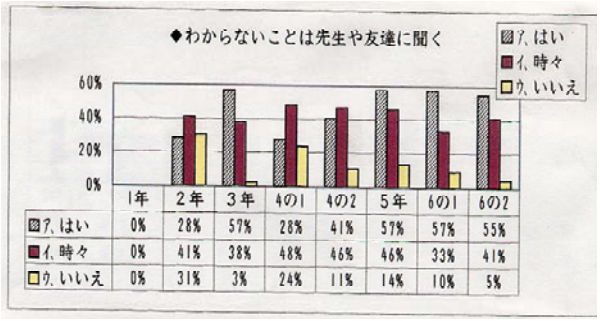
	1年	2年	3年	4の1	4の2	5年	6の1	6の2
ア、はい	0%	36%	19%	21%	14%	43%	43%	32%
イ、時々	0%	36%	49%	62%	50%	41%	33%	50%
ウ、いいえ	0%	28%	30%	17%	21%	46%	24%	18%



	1年	2年	3年	4の1	4の2	5年	6の1	6の2
ア、はい	0%	72%	68%	66%	32%	52%	52%	32%
イ、時々	0%	26%	19%	17%	36%	54%	48%	64%
ウ、いいえ	0%	3%	5%	17%	0%	14%	0%	5%

また、わからないことや難しい問題がありながら放っておく子やあきらめる子が、学年があがるにつれて多い。

（児童の変容については
次回アンケートで行う予定）



	1年	2年	3年	4の1	4の2	5年	6の1	6の2
ア、はい	0%	28%	57%	28%	41%	57%	57%	55%
イ、時々	0%	41%	38%	48%	46%	46%	33%	41%
ウ、いいえ	0%	31%	3%	24%	11%	14%	10%	5%

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　☑７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　□少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　☑国語　□社会　□算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　□有　☑無